

# 令和元年度佐世保市「赤ちゃんふれあい（いのちを育む）事業」報告書

門田 理世（西南学院大学） 渡邊 由恵（九州産業大学）

中ノ子 寿子（西南学院大学大学院生） 岩淵 善道（西南学院大学大学院生）

佐世保市幼児教育センター

## I. はじめに

佐世保市は平成27年度より、佐世保市幼児教育センターにおいて「赤ちゃんふれあい（いのちを育む）事業」を実施している。本事業は、子育て支援啓発事業の一環として、参加する保護者が、①親としての喜びを感じる、②自分の子育てを振り返る、③自分の子どもの成長や将来をイメージする、④小学生とかかわることで、地域の一員としての存在を意識することを目的としているだけでなく、参加する児童に、①いのちの大切さ・尊さ・不思議さ、②相手を思いやる気持ち、③自分の家族（親）との関係を考えるきっかけ、④親の思いを知る、⑤将来の子育てを体験する機会となることを期待している。また、佐世保市教育委員会は、学校・地域・家庭が連携していのちの大切さについて考える取り組みとして、毎年6月を「いのちを見つめる強化月間」、6月1日を「いのちを見つめる日」として定めており、本事業は、その取り組みにも寄与するものである。

以下、令和元年度実施の本事業の成果について、保護者、児童それぞれの立場から事業の意義を検証した結果、及び、いのちの大切さが子どもたちにどのように育まれたのかを検証するために実施した追跡調査「大きくなったね」の結果も併せて報告する。

## II. 調査の概要

**【本事業の概要】** 本事業では、赤ちゃんの発達やかかわり方等について事前学習を受けた児童4～6名と親子2～3組が1つのグループとなり、一緒に遊びながら児童が赤ちゃんの母親から子育てや赤ちゃんの話や赤ちゃんの話を聞く体験をする。幼児教育センターがコーディネーターとして事業運営を行っており、ふれあい体験の際は、センター職員やボランティアスタッフ等がファシリテーターとなり、児童と母親をつなぐ役割を担っている。

**【調査対象】** 幼児教育センターを利用し本事業に参加を希望した保護者とその赤ちゃん（おおむね3か月～12か月）、市内の公立小学校に通う児童5年生（97名）・6年生（72名）

**【調査内容】** 事業参加に応募した保護者、児童双方に事前・事後でアンケート調査（別紙参照）を実施。自由記述の分析は、保護者・児童の回答に意味するコードを付し、そのコードをカテゴリーに整理・分類する質的分析を行った。以下コードを< >、カテゴリーを〔 〕で表す。

表1. 本事業の実施状況

日時	開催場所	参加者数	
		親子数	児童数
6/14(金) 10:15～11:00	幼児教育センター	14組	木風小学校6年1組(35名)
6/21(金) 10:15～11:00	幼児教育センター	19組	潮見小学校6年1組、2組(37名)
6/25(火) 10:15～11:00	幼児教育センター	17組	白南風小学校5年1組、2組(51名)
6/27(木) 10:30～11:15	大久保小体育館	9組	大久保小学校5年1組(23名)
11/20(水) 10:10～10:55	金比良小イングリッシュルーム	16組	金比良小学校5年1組(23名)
「大きくなったね」 12/13(金) 10:15～11:00	幼児教育センター	13組	潮見小学校6年1組、2組(37名)
12/18(水) 10:15～11:00	幼児教育センター	17組	白南風小学校5年1組、2組(49名)

## III. 調査結果および考察

### 1. 6月・11月実施事業の結果および考察

#### (1) アンケート回答者の属性

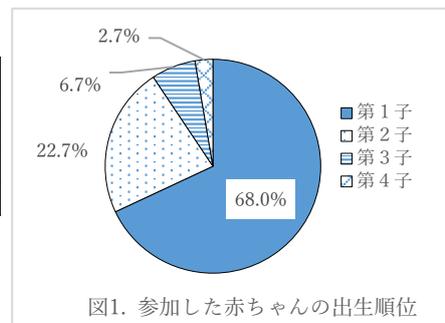
**【保護者】** 6月、11月に実施された事業に参加した保護者は延べ75名で年齢構成は30歳代の母親が最も多く、参加した赤ちゃんの約7割が第1子であった(図1)。また、「平素、小学生と触れ合うことがあるか」という問い

に対し、あると回答した保護者は54.7%、ないが42.7%、分からないと無回答がそれぞれ1.3%であった。子育てに関する不安が「ある」「少しある」と答えた保護者は全体の44.0%、「ほぼない」

「全くない」は45.3%。となり、具体的な不安の内容としては「子どもの心身の発達や健康に関すること」や「母親自身の子育て力に関すること」などがあげられた。

表2. 保護者の年齢(延べ人数)

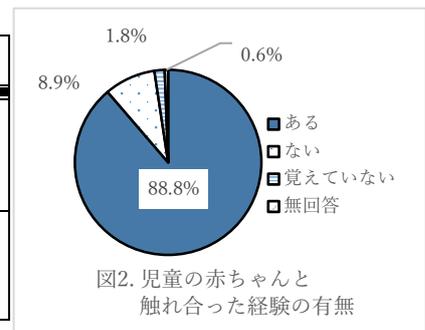
保護者の年齢	単位：人数
20歳代	17
30歳代	57
40歳代	1
合計	75



【児童】今年度の事業は、5校での開催となった(表1)。事業に参加した児童は171名であるが、事後に2名が欠席したため、事前事後共に169名を分析対象としている。学年の内訳は、5年生97名、6年生72名である。きょうだい構成は、自分の下に弟・妹がいる児童が87名、一人っ子が16名と、弟や妹がいる児童が多い。また、「これまで赤ちゃんに触れ合ったことがあるか」という問いについては、「ある」と答えた児童が150名(88.8%)に対して、「ない」「覚えていない」「無回答」は17名で全体の11.2%と、多くの児童が赤ちゃんに触れ合った経験を持っていた(表3)。

表3. 児童のきょうだい構成

生まれ順	単位：人数	弟・妹の有無	単位：人数
1番目	76	有	87
2番目	54		
3番目	22		
4番目	6		
5番目	1		
その他	0	無	16
無回答	10		
合計	169		



(2) 保護者が認識する事業参加の意義

保護者に本事業に参加してよかったか尋ねたところ、93.3%が「よかった」、6.7%が「まあよかった」と回答しており、全参加者が事業への参加を肯定的に捉えていた。参加してよかった理由について、保護者の自由記述を分析した結果、[自身の子育ての振り返り] [事業参加が自身にもたらす楽しさと気づき] [我が子が保護者以外の人とふれあう意義] [小学生の実態の把握] [社会とのつながり] [我が子に対する気づきと実感] の7つのカテゴリーに分類された。これらは本事業の①親としての喜びを感じる、②自分の子育てを振り返る、③自分の子どもの成長や将来をイメージする、④小学生とかかわること、⑤地域の一員としての存在を意識するという目的を達成していることが、保護者の感想から明らかとなった。

最も事例数が多かったカテゴリー [自身の子育ての振り返りと見通し] では、保護者が小学生とのふれあいを通して、我が子の今の成長を実感すると共に、将来への成長をイメージできるようになったことが推察される。

我が子の将来や成長について言及している保護者の殆どが第1子と参加しており(12名中11名)、また [社会とのつながり] について言及している保護者は全員が第1子との参加である。初めての子育てを経験している保護者が、本事業を通して子どもの今後の育ちへの見通しを感じられたり、子どもを取り巻く環境へのつながりを実感できたりしていることが明らかとなった。

表4. 保護者が事業に参加してよかった理由 (カテゴリー太字は本文中触れた内容)

カテゴリー	オープンコード
<b>自身の子育ての振り返りと見通し</b>	我が子の将来をイメージできたこと(7) 我が子の成長が楽しみになったこと(5) 我が子の将来をイメージして今を大切にしたいと思ったこと(1) 我が子の成長を感じられたこと(1)
<b>事業参加が自身にもたらす楽しさと気づき</b>	小学生の我が子への接し方が嬉しかったこと(9) 自分自身が楽しかったこと(5) 自身の小学生時代を想起できたこと(2) 小学生の我が子へのかわりから自分が学べたこと(1) 小学生とふれあえたこと(1) リフレッシュできたこと(1)
<b>我が子が保護者以外の人とふれあう意義</b>	我が子が小学生とふれあえたこと(8) 我が子にとって良い経験になったこと(4) 我が子が楽しんだり、喜んだりしていたこと(2) 我が子が様々な人とふれあえたこと(1)
<b>小学生の実態の把握</b>	小学生の話を開けたこと(4) 小学生の実態や成長過程を知れたこと(2) 小学生の一生懸命さを見れたこと(2) 小学生の雰囲気や気持ちを知れたこと(2) 小学生の親への思いを開けたこと(2) 小学生の親の見方を開けたこと(1) 小学生の優しさを見れたこと(1) 小学生の可愛さを感じたこと(1)
<b>小学生の学びへの貢献</b>	小学生の役に立てたこと(4) 小学生にとってよい経験になったこと(3) 小学生が命について考える機会になったこと(1) 小学生が楽しんでたこと(1) 小学生が喜んでくれたこと(1) 小学生に赤ちゃんのことを伝えられたこと(1)
<b>社会とのつながり</b>	日頃関われない小学生とふれあえたこと(3) 他の母親と交流できたこと(2) 日頃できない他者との交流ができたこと(1) 社会とのつながりを実感できたこと(1) 複数回参加により母親自身の人間関係が広がったこと(1) 複数回参加により我が子の成長の実感できたこと(1)
<b>我が子に対する気づきと実感</b>	我が子の新しい一面を発見できたこと(2) 日頃見られない我が子の表情が見れたこと(1) 我が子をかわいいと言ってもらえたこと(1) 我が子の笑顔が見られたこと(1) 赤ちゃんが周囲に与える影響力を感じたこと(1)

(3) 赤ちゃんとのふれあいがもたらした児童の気付き

児童に「赤ちゃん  
とふれあってよかつ  
たか」と尋ねたところ、97.6%が「よかつた」「まあまあよかつた」を選択しており、大半の児童が赤

表5. 児童がふれあい事業を「よかつた」と回答した理由 ※一部抜粋

カテゴリー	オープンコード
赤ちゃんについて	赤ちゃんがかわいかったから(25) 赤ちゃんが笑ってくれたから(12) 他
ふれあい事業について	日頃できない体験をしたから(25) 楽しさを感じたから(19) 他
自分の学びについて	赤ちゃんのお世話の仕方を知れたから(5) 自分が親になった時のことを考えられたから(5) 他
命について	命の大切さに気付いたから(15) 命の大切さを学んだから(8) 他

ちゃんとのふれあいを肯定的に捉えていることがわかった。「よかつた」を選んだ児童は、赤ちゃんがかわいかったこと、笑ってくれたことや一緒に遊べたこと、母親から様々な話を聞いたことを楽しかったと感じており、事業を通して命の大切さに気付いたり、赤ちゃんへの理解を深めたりしていることがわかる(表5)。一方で、赤ちゃんとのふれあいを「あまりよくなかつた」と回答した少数の児童は、その理由として「家で赤ちゃんとおふれあっているから」「赤ちゃんが泣いたから」「赤ちゃんを抱くと抵抗されたから」と回答している。後者2つの回答理由からは、児童が赤ちゃんの反応に戸惑い、ふれあうことをネガティブに捉えたことが推察される。今後、事業で赤ちゃんとおふれあう機会を提供することに加え、その経験が児童の中でどう意味付けられたのかについても調査し、事業内容に活かす必要がある。

(4) 保護者とのふれあいがもたらした児童の気付き

児童に「赤ちゃんの母親とどのような話をしたか」と尋ねたところ、「赤ちゃんのお母さんの話題」 [赤ちゃんの話題] [児童の話題] [お世話の方法の話題] などの回答があがった。また、「赤ちゃんのお母さんと話してよかつたか」という問いに対しては92.3%の児童が「よかつた」「まあまあよかつた」、1.2%が「あまりよくなかつた」「よくなかつた」と回答した。選択の理由として児童が挙げた回答(表6)をみると、まず[赤ちゃんに

表6. 母親とのふれあった経験がもたらした児童の意識 ※一部抜粋

カテゴリー	オープンコード
赤ちゃんに関する知識の取得	赤ちゃんについて知れた(28) 赤ちゃんの個性を知れた(6) 他
自分自身に役立つ知識の取得	将来の子育てに活かせる(11) どう子育てをしたらいいかかわかった(4) 他
保護者の立場への理解	母親の苦勞がわかつた(10) 子育ての大変さや喜びを知れた(8) 子育ての大切さがわかつた(1) 他
ふれあった母親へのポジティブな感情	わかりやすくしっかりと答えてくれた(5) 母親の対応の優しさ・親切さを感じた(3) 他
自分や家族に対する理解と気づき	自分の赤ちゃん時代を思い起こすことができた(3) 自分に対する親の思いに気付けた(2) 他
ふれあい体験へのネガティブな感想	母親と話ができなかつた(3) 知っている話だつた(1)

関する知識の取得] や [自分自身に役立つ知識の取得] を挙げた回答からは、児童は母親に赤ちゃんの話の聞けることを「よかつた」と捉えており、自分が親になった時や今後子どもと関わる時に今回母親から聞いた話を活かせると感じていることがわかる。また、[自分や家族に対する理解と気づき] の回答から考えると、母親の話の聞くことは、児童が自分自身の育ちを振り返り、親の想いに気付くきっかけにもなっている。これらの回答から、母親と児童のふれあいは児童自身がこれまでどう育てられてきたのかを振り返る過去への意識と、将来自分が子どもに関わる当事者となった時に今回得た知識を活かそうという未来への意識の双方向に働きかけていると言える。次に、[保護者の立場への理解] に着目すると、母親の苦勞や子育ての大変さについて知ることが母親と話してよかつた理由として挙げられている。このことから、児童が子どもを育てる親の大変さを知ることは子育てに対するネガティブなイメージを助長するものではなく、子育ての大変さ以上にポジティブなイメージとして児童の意識に残ったと言える。一方、少数ではあるが[ふれあい体験へのネガティブな感想]を回答した児童は母親と話ができなかつたことを1つの理由として挙げている。「赤ちゃんの母親と話をしたか」という問いに対しては「話した」と回答した児童が大半だったが、5.3%の児童は「話していない」と回答しており、限られた時間の中で児童が母親と接することができる機会や関わりの方には差がみられる。母親や赤ちゃんとの関わり方の個人差についても今後検討していく必要があるだろう。

2. 「大きくなったね」の結果及び考察

「大きくなったね」は、6月に触れ合った親子と児童が半年後に再会する取り組みである。12月に2回実施され、保護者は2回合わせて延べ30名が、児童は朝見小学校(6年生)と白南風小学校(5年生)の2校合わせて88名が参加した。保護者においては、6月の朝見小と白南風小でのふれあい事業に参加した保護者への参加を呼び掛けたが、事情で参加ができない保護者もいたため、他の小学校でのふれあい事業に参加した保護者も含まれている。双方共に6月のふれあい事業とは異なる相手との再会のグループもあったが、児童が赤ちゃんの成長を実感できるように参加する赤ちゃんの月齢を考慮している。

#### (1) 事業を通じた保護者自身の意識の変容

事後アンケートで「この事業で小学生と触れ合ってご自身に変化はありましたか」と尋ねたところ、約半数の保護者が、自分自身に変化があったと回答している。保護者が認識している自己の変容は「我が子に対する意識」と

表7. 保護者が認識する自己の変容

カテゴリー	コード
我が子に対する意識	日々の子育てや我が子へのかかわり方に対する意識の変容(5)
	我が子の成長に対するイメージの想起(3)
小学生に対する意識	小学生に対するイメージのポジティブな変容(5)
	日常では得られない知識や経験の取得(3)

「小学生に対する意識」に分けられた。保護者は、半年後に再会した児童との関わりを通して、「あっという間にこの小学生のみなさんのように成長していくんだなあと思うと、大変な今の子育てや時間も愛おしいと感じる」と、大変な部分も多い乳児の子育てにおいて、今がかげがえのない時期であることを認識し、<日々の子育てや我が子へのかかわり方に対する意識が変容>したことが伺える。また、児童が我が子に対して優しくかかわる姿を見ることで、「自分の子どもがあと数年たつとこんな立派な子になるのだと信じられない気持ちとこの小学生のように素直な子に育てて欲しいと願う気持ちが芽生えた」と、<我が子の成長に対する具体的なイメージの想起>がもたらされたことが推察される。さらに、「子どもや赤ちゃんに対してつめたい印象？興味なさそう…と思ってたけど、みんなあたたかく、私の事も『覚えていましたよ』と声かけまでしてくれて、うれしかった」と、それまで自分が抱いていたネガティブな小学生のイメージがポジティブに変容した結果が得られた。平素かかわることのない小学生と触れ合うことで、保護者がそれまで抱いていた認識や意識に変容が生じ、本事業が保護者の子育て支援の一助となっていることが伺える。

#### (2) ふれあい体験に複数回参加することへの児童の意識

事前アンケートで、「6月のふれあい体験の後に赤ちゃんのことが気になるようになったか」という問いに対し、21.1%の児童が「気になるようになった」、36.5%が「気にならない」、42.4%が「どちらともいえない」と回答している。8割弱の児童が「気にならない」「どちらともいえない」と回答しているが、同じく事前アンケートの「授業でまた赤ちゃんに会えると聞いてどう思ったか」という問いに対しては、その8割弱の児童の内、91.0%が「6月から、半年、どれほど成長したのかが楽しみです」「また、いい勉強ができるなあと思いました」というポジティブな回答をしている。1度のふれあいでは、日常的に赤ちゃんのことが気になるというところまでは到達できなくとも、ふれあい事業が自分自身にとって、楽しみであり、よい体験になると捉えることができていると推察される。しかし、「気にならない」と答えた児童の中には、「やっぱりいやだ」「会いたくない」というようなネガティブな回答や、「何も思わない」と無関心を示す回答も見られた(計6名)。6名中5名は、6月実施のふれあい体験において、「赤ちゃんに触れ合えてよかった」と回答しており(1名は「どちらともいえない」と回答)、約半年の間に、数名の児童の赤ちゃんに対する意識は肯定的ではない方向に変化した可能性がある。これらの回答はごく少数ではあるが、回答を看過することは憚られると考えている。今回の調査では、理由までを掘り起こす、また、個別の追跡インタビューを施す研究計画をとっていないこともあり、その理由は定かではないが、高学年児童が思春期に差し掛かっており、心情が複雑に揺れ動いている状態にあることも推察される。今後の研究課題と位置付けたい。

### IV. まとめと今後の課題

今年度、本事業に参加した保護者は、「子育てをされていて嬉しい、楽しいと思う時があるか」という問いに、全員が「ある」と回答している。子育てに関する不安については、全体の44.0%が「ある」「少しある」と答えているが、その全員が「相談する相手がいる」と回答しており、不安はあるものの孤立はしていないことが明らかとなった。また、不安の内容については、「子どもの心身の発達や健康に関すること」「母親自身の子育て力に関すること」等の今直面している悩みであるため、事業が直接的な育児不安の軽減にはつながってはいないものの、児童とふれあうことにより、児童の実態を知り、我が子の将来をイメージできる機会となっている。さらに、小学生の学びに貢献していることを実感し、特に第1子の母親においては、社会とのつながりを実感できる場にもなっており、母親としての社会参加を促す子育て支援の一助となっていることが伺える。

児童においては、半年後の赤ちゃんとの再会を果たす「大きくなったね」を実施することにより、思春期に差し掛かった複雑な精神状態の児童の意識を伺い知るきっかけとなった。6月実施のアンケートにおけるネガティブな回答は、赤ちゃんの保護者と上手く話せなかったというものであったが、約半年後に実施された「大きくなったね」では、事業そのものを拒否するような回答が見られた。これらの回答をした児童はごく一部であるが、今後他の児童も思春期に入り、身体的な変化と共に、その精神状態は複雑なものとなっていくことが推察される。本事業の体験が、思春期に入った時に何らかの影響をもたらすのか、発達の変化と共に検証していくことが求められる。児童と赤ちゃん・その保護者が触れ合う経験は、1度きりの体験でも保護者や児童にとって意義あるものとなっていることがアンケート結果からも示されているが、今回の「大きくなったね」の結果が示すように、一過性のもので終わらせず、継続していくことが佐世保市の子育て支援と児童・生徒育成のためには必要といえる。

## 【6月・11月実施事業アンケート項目】

小学生事前アンケート		保護者事前アンケート	
問1	年齢・性別・兄弟の数・自分が兄弟の何番目か	問1	年齢・性別・お子さんの月齢・何人兄弟・第何子目か
問2	これまでの赤ちゃんとのお触れ合い経験の有無、回数、触れ合った対象	問2	事業に参加しようと思った動機
問3	「赤ちゃん」と聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問3	事業に参加した回数
問4	赤ちゃんと触れ合う中でしたいこと（自由記述回答）	問4	平素、小学生と触れ合う機会の有無、触れ合う場面
問5	赤ちゃんの保護者に聞いてみたいこと（自由記述回答）	問5	小学生に対するイメージ（自由記述回答）
		問6	子育てをされていて楽しい・うれしいと思うこと、どのような時に嬉しい楽しいと思うか
		問7	子育てに対する不安や気になることの有無、その内容 相談する相手の有無、相談する相手
小学生事後アンケート		保護者事後アンケート	
問1	事業に参加して感じたこと	問1	事業に参加して感じたこと
問2	赤ちゃんと触れ合った内容（自由記述回答）	問2	保護者が事業に参加したよかったか、その理由
問3	そのときの気持ち（自由記述回答）	問3	赤ちゃんが事業に参加してよかったか、その理由
問4	赤ちゃんと触れ合ってよかったか、その理由	問4	小学生のイメージの変化の有無、その理由
問5	赤ちゃんの保護者と話したか、その内容	問5	小学生が赤ちゃんと触れ合うことがよかったか、その理由
問6	赤ちゃんの保護者と話してよかったか、その理由	問6	今後この事業に参加したいか、その理由
問7	「赤ちゃん」と聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問7	事業に対する感想（自由記述回答）
		問8	事業への要望・意見（自由記述回答）

## 【「大きくなったね」事業アンケート項目】

小学生事前アンケート		保護者事前アンケート	
問1	6月の授業の後赤ちゃんと触れ合う機会があったか それはいつ、どこで、誰と、何をふれあったか	問1	年齢・性別・お子さんの月齢・何人兄弟・第何子目か
問2	6月の授業の後、赤ちゃんのことが気になるようになったか？ それはいつ、どこで、赤ちゃんのどのような様子が気になったか	問2	事業に参加した回数
問3	授業でまた赤ちゃんに会うと聞いてどう思ったか？	問3	「大きくなったね」に参加しようと思った理由
問4	今から会う赤ちゃんはどのように大きくなっていると思うか？（自由記述）	問4	子育てをされていて楽しい・うれしいと思うこと、どのような時に嬉しい楽しいと思うか
問5	赤ちゃんと触れ合う中でしたいこと（自由記述回答）	問5	子育てに対する不安や気になることの有無、その内容・相談する相手の有無、相談する相手
問6	赤ちゃんの保護者に聞いてみたいこと（自由記述回答）		
小学生事後アンケート		保護者事後アンケート	
問1	赤ちゃん・保護者とふれあって嬉しかったこと・楽しかったことがあったか、ある場合はその内容	問1	保護者が事業に参加したよかったか、その理由
問2	赤ちゃん・保護者とふれあって困ったこと・戸惑ったことがあったか、ある場合はその内容	問2	赤ちゃんが事業に参加してよかったか、その理由
問3	赤ちゃんは6月の時と比べてどのように大きくなっていたか（自由記述回答）	問3	今日出会った小学生は前回の時と比べて何か変化したところがあるか、変化した場合はどこが変化したか
問4	赤ちゃんとふれあった内容（自由記述回答）	問4	この事業にまた参加したいか、その理由
問5	赤ちゃんの保護者とお話したか、その内容	問5	この事業で小学生に触れ合っ、自身に変化があったか、変化した場合はどこが変化したか
問6	これから赤ちゃんと出会ったらどのように関わりたいか（自由記述回答）	問6	事業に対する感想・意見・要望